

令和 6 年度総合教育会議「教育大綱の改定等に関する協議」主な意見

【区長】

- ・ 平成 28 年 1 月の教育大綱策定以降、「子どもたちを取り巻く環境」、また、「義務教育学校のあり方」など、教育行政には大きな変化が起こっていると感じている。そこで、新たな「板橋区基本構想」と「板橋区基本計画」の策定にあわせて、私は「板橋区教育大綱」の改定の必要性を強く感じている。
- ・ 本日、開催する「総合教育会議」においては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、地方公共団体の長と教育委員会が、教育行政について、協議・調整を行い、両者が教育施策の方向性を共有するなど、連携体制の強化を図るために設けられている会議である。特にこの法律の規定により定めている、「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」である「板橋区教育大綱」の策定に関する協議は、大変重要なものと考えている。
- ・ 今年度と来年度の板橋区総合教育会議では、令和 8 年度からの施行を見据えた教育大綱の改定について、教育委員会の皆様と協議を行っていきたい。

【区長】「ウェルビーイングの実現と教育行政システムのグレート・リセットについて」

- ・ 板橋区の子どもたちが、ウェルビーイングを実現しながら、自分の人生をしっかりと歩み、社会的自立を果たせるようになるためには、義務教育学校のあるべき姿が、時代に合わせて変化をしていく必要がある。同時に、一昨年度の総合教育会議でも協議したように、子どもたちには学校以外にも居心地が良く、安心して過ごすことができるような広義の居場所があることが大変重要である。
- ・ 学校教育の分野での大きな課題の一つは、板橋区の不登校の児童生徒が 1,000 人を超えたことである。理由については、一人ひとり様々だと思うが、従来の「学校」というシステムでは受けとめることができないような子どもたちがこれだけいるということは、考え直す必要がある。
- ・ 居場所については、一昨年度の総合教育会議の中で、小豆沢体育館室内プールにおいて、板橋区体育協会が板橋区水泳連盟と東京ドームスポーツの協力を得ながら、幼児から小学生を中心にスイミングクラブを運営している事例と、板橋こども動物園や高島平分園において、小学 3 年生から中学生までを対象にして、放課後や学校休業日に 1 年を通して、動物のお世話や、接客体験を行っている子ども動物クラブの取組も紹介した。
- ・ この事例を通じて伝えたかったことは、居場所として重要なことは、ただの「場所・スペース」を用意するものではなく、「多くの仲間や支えてくれる人との出会いや、成功・失敗を繰り返しながら成長していく」、こういった「社会を生き抜くために必要な力を蓄える経験を得る場」が重要ではないか。
- ・ このような、「学校以外でも、子どもたちがウェルビーイングを実現すること」の重要性は、ここ数年でさらに高まっていると感じている。また、そのような多くの大人の目で見守られながら、安心して過ごすことができた子ども時代を板橋区で過ごした経験が、「板橋」への郷土愛の心を育む源泉に

なるのではないか。

- ・ 子どもは大人の姿を見て成長するものである。例えば、今年の1月に、「板橋区かわまちづくり基本構想」というものを発表した。従来の河川敷の活用方法の枠を超えた「自然体験型アーバンリバーパーク」というコンセプトを示している。ここでは、子どもはもとより、大人も遊ぶことが可能であり、自然・環境・生物多様性を学んだり、屋外体験ができるなど、生涯学習の新たな実践の場が生まれると考えている。また、開園準備を進めている史跡公園については、重要な産業遺産の保存という使命を果たしながらも、過去をたずね、それをヒントに新しい技術や道理を見つけ出す「革新」を通して、板橋区の新しい未来を創るきっかけの場になり得る可能性を秘めていると感じている。また、生まれ変わった区立中央図書館は、学び続ける大人を引きつけながら、年間86万人という多くの人の流れを新たに作り出し、上板橋地区の再開発事業のまちづくりの加速化を促している。さらに、隣接する教育科学館については、老朽化の課題を抱えているが、これまで果たしてきた役割に限定されることなく、改築を行うことによって、子どもたちはもとより、大人のリスキリングにも新たに寄与できるかもしれない。区立中央図書館との相乗効果によって、上板橋地区のまちづくりのブランディングにもつながっていくと考えている。ここまで、従来の事業や施設、これまでにない視点を加えて、新しい価値を生み出すことができた話をしてきた。これらには、重要な共通点があると思う。それは、従来の価値観や考え方を一度リセットして取り組むという考え方である。
- ・ 世界経済フォーラムが毎年開催する国際会議において、ダボス会議というものがある。この「ダボス会議2021」においては、コロナをきっかけとした様々な制度矛盾の露呈を受けて、世界を動かすあらゆる社会経済システムを見直す必要性を訴える「グレート・リセット」という考え方が提唱される予定であった。皮肉にもダボス会議2021は、コロナ禍により中止となってしまったが、板橋区においても、「不登校児童生徒の1,000人超え」といった象徴的な事象を重く受け止め、学校教育、社会教育を問わず、不登校対応のようなものから教育施設に至るまで、区の教育行政に関するシステムの、まさに「グレート・リセット」が必要ではないかと感じている。
- ・ 次期教育大綱においては、このような視点で、板橋区の教育、学術及び文化の振興に関する新たな方向性を示してまいりたいと考えている。

【高野委員】「まちや地域への愛着を育むことの重要性について」

- ・ 板橋区では、不登校児童の増加など学校生活で困難を抱えている子どもが増えていることを踏まえ、誰一人取り残さないための居場所づくりを進めており、ハード面ではほぼすべての学校内に教室以外の居場所をつくることができた。しかし、スペースの関係や運用面での支援にあたる人の不足が課題となっており、恒常的、長期的に見守りを行う人材の確保が必要となっている。
- ・ 子どもたちの利用の仕方や抱える問題は、多種多様、複雑なため、一人ひとりの子どもに親身に寄り添うことが、求められていると感じている。
- ・ 先生方の負担を少しでも軽減し、困難を抱えている一人ひとりの子どもに向き合い、寄り添うためにも、地域の方々の支援を充実させていくことが重要である。

- ・ 「推しの木プロジェクト」は、自分の住むまち、地域を好きになり、誇りに思うような郷土愛、シビックプライドの醸成を目指し、子どもたちが学校と地域への愛着を育む教育プログラムである。対象を広げていくことで、子どもたちの興味関心が広がり、自分の住む板橋区を好きになり、誇りに思う気持ちが育っていくのではないかなと思う。
- ・ 子どもの学びや成長を支える人や環境の充実を図ることが、現在検討に入った板橋区教育ビジョンでの 2035 年の板橋区を見据えた際に必要な取組ではないかなと考える。

【青木委員】「教育のD Xについての現状、課題について」

- ・ 1 人 1 台端末になり、今の小学生・中学生はデジタルネイティブとして情報活用能力は上がってきている。しかし、情報モラル、情報倫理に抵触するような事例も散見され、情報モラル教育を徹底すべきと感じている。
- ・ 一方で、学校の中では、D Xにより、様々な効率化ができてきた。例えば、個別最適化に向けた学びにデジタルツールが非常に活用されて、学校への信頼感が高まっている。対面でない形が、不登校の場合の対応や学びにも活用でき、教員と生徒の関係も円滑に進むようになってきた。
- ・ また、最新デジタル技術を、ゲーム感覚で学習に活用できる学びや 4 D プリンターのような全く新しい技術を授業で取り入れると、子どもたちの興味関心につながる。先生方は、効率化して空いた時間で、今の社会、未来の社会に対しての研修を受けてもらうということが、いい方向に繋がると思う。
- ・ コロナ禍を契機に、1 人 1 台端末で教育分野での活用が進んでいる状況だが、便利、効率化ということだけではなく、学校は、集団の中での学びが本来の目的を見失うことがないように、教育のデジタルトランスフォーメーションを推進することが、教育活動の基盤を充実させ、さらにはウェルビーイングの実現につながると考える。

【野田委員】「多様な居場所づくりとコミュニティスクールについて」

- ・ 安心安全な多様な居場所が確保されてきたと実感しており、今後は、その居場所をどう機能化して有効利用していくかが、これからの課題である。
- ・ 不登校児童が、地域の高齢者の皆様からの声かけによって、近隣の公園を地域の方と一緒に毎朝掃除をすることができるようになり、大きな一歩となったという事例があり、非常に感動した。必ずしも、学校に足が向かなくても、周りの人と話をする機会を得る貴重な体験をしたことは大事だと考えている。
- ・ ICS・板橋コミュニティスクールスクールには、推進委員会の委員として立ち上げから参加している。委員については、地域の学校に思いを持つ、多様なスキルを持つ健康な方々が、子どもたちの目線に立って、動いてくれている。この組織は集まると、自然と議論が始まるという理想的なコミュニティスクールである。
- ・ コミュニティスクールでは、メンバーの入れ替えもあるが、これまでの経験を生かして、学校の困りごとと一緒に考えてくれる地域の力が、真の私たちが目指すコミュニティスクールだと思っている。さらに充実するために努力して意見交換や情報共有をしていきたい。
- ・ 喫緊の教育課題や個別のニーズにきめ細かに対応した居場所を作ること

で、子どもの権利を守り、誰1人取り残さない支援を行うことが、「子どものウェルビーイング」につながるのではないかと考える。また、コミュニティスクールを通じて、保護者や地域の人がつながり、一体となってより良い学校づくりを進めることが、「家庭や地域のウェルビーイング」の向上に寄与すると思う。

【善本委員】「子ども一人ひとりの発達段階、特性、興味関心に応じた学びについて」

- ・ 「子どものウェルビーイング」を実現するには、子どもが社会に出て自立する力を身につけることが必要である。これからの時代は、自分の考えを適切に表現することや自己調整して改善する力が、未知の課題に出会ったときに、仮説を立て、自分だけでなく他の人と協同的に物事を解決していく力が求められている。
- ・ 児童生徒の学校生活で起こった小さな悩みやつまづきを、小さいうちに支援する体制を学校が整えると、学びが苦しいものではなく、失敗を恐れずに安心してチャレンジできるようになる。また、区立中央図書館や区立美術館のような興味関心を広げる機関の活用も大事である。
- ・ この数年の災害や感染症に対しては、学校の危機管理体制を整えながら、児童生徒自身の危機管理能力も高めていくことを忘れてはならない。
- ・ 教員の働き方改革も、教員の資質が向上して学びの質的転換への話題が展開されることが大切である。
- ・ 子ども一人ひとりの良さや可能性を引き出し、伸ばす学びを推進することが、「子どものウェルビーイング」の実現に重要である。また、教員が本来業務に集中できる環境を作り、「教員のウェルビーイング」の実現も大切である。

【長沼教育長】「生涯にわたり共に学び支え合う教育の推進について」

- ・ 教育は、「人が幸せに生きるためにある」と考えており、学ぶこと自体に価値がある。さらに、その学んだことを他者や社会のために生かすことで、個人や社会が幸せになり循環していくことが、ウェルビーイングと同じととらえられる。教育長としての3年間の任期で考えている取組のキーワードは多様性であり、区民の多様化するニーズにいかに関教育行政がこたえていくかにあたって、4つのことが重要になる。
- ①「子ども一人ひとりの良さや可能性を引き出し、伸ばす学びを進めていくということ」

幼児期においては生きる力の基礎づくりを行うことが大切である。学びにも多様性を持たせ、興味関心に応じた学びの充実を図り、豊かな人間性や社会性を育みつつ、体力向上や心身の健康づくりを進めることが大切である。個別的な支援を要する子どもにも寄り添い、誰1人取り残さないきめ細やかな教育を充実させていきたい。学びの多様化学校の開設の研究にも入っていききたい。不登校対策及び不登校を生まない教育事業を進めていく授業革新の必要性を感じている。

②「子どもの学びや成長を支える人や環境を充実させるということ」

教員自身の働き方改革も進めるが、部活動の地域移行も、地域と連携協働しつつ、ICSの力も借りながら素地を作っていく。また、家庭教育への支援も

しっかり行う必要がある。子どもが安心安全に過ごせる第3の居場所の充実も図っていく。また、ハード面でも魅力ある学校の整備を引き続きやっていき、時代のニーズにマッチした教育施設整備の検討も始める必要がある。

③「生涯にわたり、学び支え合う教育を推進していくということ」

幼児期から始まり、社会人になってからも学びを止めないという習慣、文化が、日本では定着していない部分もあるため、もっと充実させる必要がある。読書活動の推進や絵本文化をさらに展開させていくということも、教育委員会として取り組んでいく。また、文化財の保存活用も重要視していきたい。

④「教育活動を支えるための基盤を作る」

コロナ禍でGIGAスクール構想が前進して、授業や学校の校務はICT抜きにはできなくなっているが、不十分な面もあり、学校のDX化を進めていく必要がある。社会教育分野でも講座講習会をオンライン含めて行う必要がある。この基盤作りは、ICTに限ることなく下支えするようなことを、先ほど伝えた3つの取組を行いつつ推進していく。

- ・ これからの10年は予測不可能な状況であり、10年後の学校の姿は今と全く変わっているかもしれない。教育行政にとって大変な時代だからこそ、しっかり区民に提案していきたい。改めて、教育委員会としても、私が掲げた「教育は人が幸せに生きるためにある」を共有しながら、教育行政を進めていきたい

【区長のまとめ】

- ・ 今回の会議で共有した区の教育行政全般に対する課題、方向性、考え方について確認ができた。それを踏まえて、来年度の総合教育会議に向けて、議論の内容をよく整理したうえで、新しい教育大綱の骨子を作成し、お示しさせていただきたい。

教育長及び教育委員の皆様には、ぜひこれからも教育行政の進展にさらなるご尽力を賜りたい。